

ひとりひとりのしあわせと、  
生きる喜びを、いのちの輝きを  
ささえたい。

# きらめき

VOL. 69

## 平成31年度 定期総会



平成31年4月19日（金）、イオンモール大牟田 イオンホールにて、平成31年度定期総会が開催されました。

はじめに当協議会の安藤会長より挨拶があり、「今年は当協議会が創立20年を迎えます。1月には20周年の記念事業を行います。会員の皆さんで盛り上げていきましょう」と話されました。

続いて、来賓の大牟田市保健福祉部 岩成寿美部長、大牟田市介護サービス事業者協議会 井田謙会長よりご祝辞を頂きました。岩成様からは「大牟田市高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画を推進していくためには、介護支援専門員の皆さまのご協力が必要です。引き続きご支援をお願い致します。」、井田様からは「当協議会も20年目を迎えます。これからも質の高いケアを提供していくために、共に協力ていきましょう。」とのエールを頂き、市とサービス事業者協議会との協働の更なる重要性を感じました。

その後、総会が成立したことが報告（会員総数293名／出席者89名＋代理人への委任80名＝169名で、総数の過半数を超えた）されました。そして、大牟田医師会ケアプランサービスセンターの竜円絹恵さんが議長に選出され、議事に入りました。議案第1号「平成30年度事業実績報告」、第2号「平成30年決算報告及び基金運用状況報告ならびに監査報告」、第3号「平成31年度事業計画(案)」、第4号「平成31年度予算(案)」以上すべての議案が承認されました。議案承認後に、安藤会長から20周年記念事業の趣旨説明があり、「会員の皆さんとともに記念事業を盛り上げていきましょう」と呼びかけられました。最後に当協議会の林副会長より「今年度は色々な意味で記念すべき年です。人材の確保、業務の効率化、そしてケアマネの世界にもAIが必要かと言われています。20周年を迎えるにあたりそのところを大いに考えていくたいと思います。皆さんのご協力をよろしくお願いします。」と挨拶されました。

今年度も基礎研修やフォローアップ研修、新たに参加者を募集して始まったスーパービジョン研修（基礎編・実習編）など、会員の皆さんのスキルアップしていきたいという熱い想いに応えられる研修会を予定しています。詳細は連携のホームページ（アドレスはきらめきの最終ページを参照）に記載しておりますので、1日1回のアクセス＆確認をよろしくお願いします。



## …会長挨拶…



**安藤 寛治**（メディカル・コア あとむ薬局）

人生100年と言われる昨今、地域包括ケア・地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制が望まれています。そんな中で、私達は対人援助専門職としての資質向上は勿論、高齢者介護、障がい者支援、子育て支援、医療と介護の連携等においてケアマネが市民一人ひとりに対し、どのような活動をして、多職種連携による情報共有を通じて、A.Iとは違う血の通った対人援助を目指す必要があります。このような事象を考えられる20周年記念事業を開催予定ですので、多くの皆様の参加をお願いします。

## …副会長挨拶…



**林 洋一郎**（高齢者総合ケアセンター サンフレンズ）

令和という新しい時代が始まりました。また同時に、本年は、私達ケアマネ連協にとりましても、新たな出発となります。

会員の皆さんとともに、このケアマネ連協を創り上げ、そして、ともに20周年を迎えることができることに感謝を申し上げます。

人材の問題が深刻化するなか、私たちの仕事にも大きな影響が予測されます。しかしながら、“利用者の福利のために、利用者の自己実現のために”という理念や目的は不变なものです。そのことを軸にあいた協議会の姿や活動でありたいと願っています。

ともに新たな時代の「ケアマネ連協」を創っていきましょう。

## …部会員紹介…

## 研修事業部会



皆様、こんにちは。

今年度も研修部会長を務めさせて頂きます森田里恵です。

私達、介護支援専門員には対人援助技術や医療、介護の知識をはじめ、他にも多くの学びが必要です。

毎回、研修部会員を中心に各事業部会長とも連携しながら、研修計画を立てています。

このような話を聞いてみたい、勉強してみたい、という会員の皆様のご意見もありがたいと思っています。皆さんと一緒に、大牟田でよりよい研修体制が作れるようにと考えています。どうぞよろしくお願いします。

## 事務局部会



皆様、こんにちは。事務局の橋口です。今年度も10名メンバー、フルパワーで会員の皆さんや各事業部の活動支援を行っていきます。令和元年度は、協議会20周年を迎えます。本事業・記念事業ともに会員の皆さんと創りあげの“プロセス”も楽しみながら取り組むことができればと思ってあります。一緒に取り組みたいという方！！いつでもお待ちしております。

**広報事業部会**

これからもどうぞよろしくお願いします。

「きらめき」へのご意見・ご感想もお待ちしています。

広報部会の今岡です。何とか一年やってこれました。

会員の皆様、部会員の皆さん、ご協力、ありがとうございます！！

さて、今年度も広報部会は、広報誌「きらめき」を三回発行する事を目的としています。

また定期的に号外も発行して、会員の皆様に新鮮な情報を提供していきます。

**情報交流事業部会**

会員の皆様、こんにちは。情報交流部会の部会長を務めさせていただいている松下です。

当協会は今年で20周年を迎えました。

20年の間には地域の状況や介護保険制度も様々に変化してきました。

その中で、会員の皆様は切磋琢磨しながらご利用者の支援に力を尽くしてこられたのではないかと思います。

情報交流部会では、ケアマネの皆様の日々の活動や研鑽の一助となることを目指して、研修会や交流会などの開催に取り組んできました。

20年という節目を迎えて、こころ新たに今年度の事業を開催いたします。

多くのケアマネのご参加をお待ちしています。

また、新たに部会員になっていただける人材も募集していますので、よろしくお願ひいたします。

## 介護支援専門員連絡協議会 創立20周年記念事業の進捗状況の報告（6月末付）

令和2年1月25日（土）の開催に向けて各担当委員会の準備は着々と進んでいます。

**啓発劇** 脚本が完成し、現在はキャスティングを行っている段階です。

演題：「A.Iとケマネジャー～あるべき姿を目指して～」（仮）

**特別講演** 斎場三十四先生が御登壇される事が決まりました。講演して頂く内容について調整中です。

演題：「眞の対人援助職とは？」（仮）

**パネルディスカッション**

1回目のプレ座談会を開催しました。現在、2回目のプレ座談会を調整中です。

演題：「対人援助職としての揺らぎと成長」（仮）

出演者：未定

**懇親会** 現在、会場の選定や内容を検討中です。

**広報** 20周年記念事業のチラシやオリジナルグッズを検討中です。

# シリーズ・実践事例

心身状況や生活状況に不安を抱えた利用者に対するケアマネの実践  
～事業所を頻繁に変更されるA氏の事例～



本人は被害妄想が強く、常に意向が二転三転していた。本人の心身状況を考えると早く医療機関につないだ方がいい、との思いがあったが、本人の突然の行動力でなかなか思うように生活を支援できず、そのまま居宅変更になってしまった事例である。

事例の経過とともにどのタイミングで支援の展開が出来たのかを振り返ってみたい。

## 【基本情報】

- ・A氏 80歳後半 女性
- ・独居 身寄り無し 地域との関わりは少ない
- ・要介護 1
- ・障害高齢者自立度 J1
- ・認知症高齢者自立度 II b

## 【A D L 状況】

- ・移動：室内伝い歩き 屋外は杖歩行
- ・食事：自分で購入してきたものを自力摂取
- ・排泄：基本下着を身に付けていない、ズボンで過ごすが動作が緩慢で間に合わず、失禁状態が多くなっている。
- ・入浴：自宅での入浴は、物があふれていて浴室使用不可。  
通所サービスでの入浴になっている。月に2～3回程度。
- ・金銭管理：不動産を複数所有しており、基本自分で管理されている。  
\*被害妄想（物取られ妄想が多い）
- ・服薬管理：基本、定期受診はされていない。  
内服薬なし
- ・外出：タクシーの利用や、知人の車で支援協力が行われている。

## 【医療情報】

- ・平成30年の主治意見書より、2型糖尿病・変形性膝関節症・認知症  
同年、交通事故で足の骨折をされ、入院された経過があるが、不穏状態もあり、本人希望で自己

退院。完治されないまま退院されているため、足の痛みが後遺症にある。

## 【生活歴】

高校に社会科教師として勤務し、定年まで勤め上げた。

結婚歴はなし。親族はすでに他界しているが、知人と交流がある。

両親が所有されていた不動産関係を引継ぎ、現在も複数の不動産から家賃収入を得ている。

いつの頃からか、被害妄想が出現し、自宅はゴミ屋敷状態になってしまった。

## 【支援経過】

平成30年2月下旬、包括支援センターより、居宅受け入れの相談があり、担当となる。

初回面談のため、包括職員と同行訪問する。

自宅門扉には鉄線が張られ、監視カメラが設置されてあった。門扉から玄関まで木が生い茂り、野良猫が複数匹姿を見せている先には、A氏の食べ残した食事がえさとして置かれていた。

自宅に入り、衛生面がかなり悪い環境にあることを知った。広縁の間で面談を行った。

A氏は自分の若かりし頃の話から、泥棒が頻回に侵入してきては物を盗っていくなどの最近の話などを繰り返しされた。体調について伺うも、「定期診察は行けてない。行く暇がない。」と話されてあった。立ち上がり時には足の痛みを訴えられ、歩行は伝い歩きの状況。「私は足が悪くてね・・。」と話され、通所サービスの必要性をしきりに話されていた。

前任のケアマネからの情報で、先月初旬までデイケアとデイサービスを利用されていたが、急に行きたくないと理由で、キャンセルが続いていた。引継ぎ時点では、デイの利用中止の意思をケアマネに伝えられていたとのこと。今回の面談で、A氏のサービス利用の意向を尋ねると、「お風呂に入りたい。自転車こぎをして足腰を強くしたい。」と話され、違うデイの事業所を紹介してほしいと

の事であった。ヘルパー事業所については、現在の事業所を継続とのことを確認した。家屋の状況（異臭や物の散乱、不衛生な状況）や医療管理面の不安を抱えたまま、アセスメントを終えた。

### 平成30年3月初旬

引継ぎでの担当者会議も終わり、新しいデイサービスに行かれることになった。約1ヶ月ぶりの入浴のこともあり、また、被害妄想の言動も気になり、初回利用時、デイに面会に行く。するとデイ職員より、報告があった。入浴時にA氏が護身用の小型のナイフを身に付けてあるのに気付いたため、お帰りになるまで施設で預かるように説明すると、「私は大金を持っているので、誰かに襲われたら、どうするの！」と激昂された。デイ職員が丁寧に説明をし、ようやく納得されたとのことであった。入浴後は消極的ではあるが、テーブルを囲んでの対話や午後からの自転車漕ぎなどの体操をされて帰宅されたようである。

数日後、A氏宅訪問。

今回は、自室と称されるダイニングに通された。台所は汚れた食器の山、コバエが多数発生しており、排泄はバケツで行なわれている状況だった。コンビニ弁当を購入されており、食べた後もそのままの状態だった。A氏より「今日は何しにきたのですか？」と尋ねられ、先日のデイの感想、生活環境の整備がヘルパー支援では追いついていない状況、病状の悪化（糖尿病の診断を受けてあるが、医療管理が出来ていない）が懸念されることなどを話した。すると突然A氏から「今のデイは辞めようと思う。私に付きまとい、何か探っているようだ」「次に自分で調べて問い合わせした事業所を利用したいので、そのつなぎをしてほしい。私は忙しいから、手続きを早急にお願いします。」と一方的に話をされてしまい、辞めたい理由の詳細を尋ねたかったが、聞けなかった。

また視力も悪い様子で、話す方向の視点がやや違う方向になっていること、油物の多いコンビニ弁当の空箱等が散乱していることが気になり、脳血管疾患、白内障、神経障害などの合併症が疑われるため、（被害妄想？認知症？）受診されるように助言した。しかし、A氏は「以前のかかりつけの病院看護師に『あなたは臭いから来てくれるな』と言われ、私もそこまで言われたら、特段気になる状態も無いし、行くつもりがありません。」と頑

なに拒否された。足の痛み・痺れ・視力の低下等気になる点はあったが、それ以上伝える事は関係性を維持させるためにも躊躇した。結局、サービスの調整のみを行い、再度会議開催が必要な旨を伝え、A氏の了解を得た。

### 翌週

A氏が希望されるデイの事業所から、受け入れ可能の返事を頂き、本人に連絡する。

担当者会議の調整を行い、当日、デイ職員とA氏宅を訪問した。

A氏は「何で勝手に来たのですか？私は知らなかつた。昨夜から米は取られるし、誰かが入ってきた形跡もあるし、上から小人が出てくるし、大変だったのですよ。」と妄想の言動が著明だった。一旦、話を聞く側に徹し、落ち着かれたところで会議を開催。ヘルパー事業所より、「物があふれて不衛生な状態が気になっていますので、もう少し私的な業者さんを使って片づけをされると移動時にも転倒が起きないような安全な動線が確保されるのでは？」との提案があった。しかし、妄想やA氏の発言が度々変化し、デイは来週から週1回リハビリ・入浴目的で利用されることを確認するだけに終わった。

### 3月下旬

デイの事業所より、続けて2週間デイは休まずに行かれているとの報告を受け、安心する。では訪問介護はどのような支援になっているのか確認するためにA氏宅を訪問した。A氏の心理面は落ち着いておられ、ヘルパーにゴミ袋を準備されており、一つ一つ不要なものを確認して捨てられている状況だった。排泄物の処理も行ってもらい、訪問介護の利用日ではない日は自分で庭に破棄されている、との報告を受けた。A氏に「生活は自分の思っていらっしゃる形で過ごせていますか？」とお聞きすると、「片付けは私もするし、臭いから風呂にも入れている。今はとにかく窃盗団の事が気がかりです」と話された。

### 4月中旬

モニタリングでA氏宅を訪問。A氏より「違うデイに行こうと思う。今のデイはやたらと私に付き添い過ぎて嫌です。」と相談される。A氏自ら探されており、希望の事業所をお聞きし、検討・調整

することにした。2か所のデイケアに受け入れの相談に行くと、以前利用歴があり、その際、同じような苦情を突然言われ、結果、終了されていた事実があった。今回、改めて相談したが、他の利用者さんより不衛生で来所されることが苦情になっていたため、今回は受けることができないとの回答を受けた。A氏には、受け入れ出来ない状況とだけ報告すると、「では今のところを続けていいです。」との反応だった。

現状のデイケアには今回の相談のいきさつを報告し、「できるだけの対応を考えていきます。」との快諾を受けた。

## 5月中旬

ヘルパー事業所より、「とにかく臭気が強い。『窃盗団が来るから』といって自室の窓を開けられず、換気は出来ない。ハエやゴキブリ、子ねずみまで出没しているから、保健所などからの指導などをお願い出来ませんか？」と相談が入った。包括支援センターには初回の関わり時点からA氏の支援について相談をしており、今回は支援が先に進まない状況である経過を報告。合わせてA氏宅への行政の介入について相談を行った。後日、包括支援センターからは「環境衛生分野の課に相談したが、『A氏の承諾なしに強制的に介入する事は難しい。A氏の承諾を得てからの話になります』との返答だった。」との回答を受けた。A氏と再度面談するため、自宅を訪問した。

生活環境がますます悪化している状況を目の当たりにし、私的な業者を紹介しようとすると、自分で業者を探されており、面談途中にその業者が見積もりに来られた。しかし、あまりの不衛生さに驚かれ、床も腐っている状況もあり、修理も含めて大分お金が掛かる事を説明されるとA氏は「もう結構です。私は今の環境で十分ですから。」と立腹されてあった。A氏の身体的な衛生面も気になり、せめてデイを週2回にし、入浴の機会を増やすことを提案したが、「1回で十分」と拒否された。また、訪問する度に「あなたはどこから来たのですか？」と必ず聞かれ、他者に対する慎重さも伺えた。

## 5月下旬

ますます被害妄想の言動が多くなり、対応に苦慮していた。モニタリングで訪問をする際には、

必ず電話でA氏の了解を得て、自宅訪問を行った。排泄は間に合わない状況が目立つようになり、自室の悪臭は強くなっていた。「どこか体の不自由はないですか？」とお訊ねしても、「いえ。私は大丈夫です。あなたが今のデイの利用を続けるように言われるので、行っていますけど、その後の対応はよくしてもらっています。」と笑みで返答された。その数日後、包括支援センターより、「A氏から居宅を変更したいとの相談が入った」との事情をお聞きし、突然支援が終了となつた。

## 考察

今回、居宅の受け入れの際に事業所を転々とされている現状をお聞きしていたので、慎重かつ丁寧に対応、タイミングで医療機関につなげられるようにとの想いで、A氏と向き合ったつもりであったが、結局は短期間での支援に終わってしまった。A氏の想い、こだわり、生活スタイルをなど情報収集しようと試みてきたが、距離は縮めることは出来ず、最後までA氏の想いがどこにあるのかもつかめない状況だった。またA氏は自分でサービス事業所を探されたり、食事を自分で調達されたりするなど自立の視点から見ると行動力のある方だった。そのため、お互いが必要とする支援のタイミングがA氏とケアマネの間で合わなかった場面もあった。ケアマネに少しでも長くA氏の担当を続けられたら…という想いがあり、A氏に対してもう一歩踏み込んだ対応をする事を遠慮していました部分があったように思う。実はその時が、A氏の支援の展開のタイミングだったのかもしれない。

A氏が突然、「居宅を変更したい」と拒否された理由の詳細については、はっきりと聞くことは出来なかつた。しかしA氏のように、居宅やサービス事業所を頻回に変更されるという事例は地域の中によくある事例である。今回のA氏の事例を通して、地域包括支援センター・行政、サービス事業所との連携・情報共有の必要性について改めて学ばせて頂いた機会となつた。また本人の生きる力・行動力をきちんとアセスメントする事、必要とされるサービスの導入の時期の見極めなど、A氏との信頼関係の構築が十分に出来ていなかつた中、非常に悩まされた。その反面、改めて利用者の「自立」について考えさせられた事例であつた。

# りしー隨想



梅雨入りもして気温も高くなり、熱中症等体調を崩しやすい時期になっていますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか？

はじめまして。ケアプランセンター光 大野さんよりバトンを引き継ぎました大牟田中央病院  
ケアプランセンターの川西です。大野さんとは初任者研修にて同じグループとして勉強をさせて  
いただいた際に面識を持たせていただきました。

今回リレー随想を担当させていただく事になりましたが、特に興味を示すような話しまらないので、私が福祉の業界で働く事になったきっかけをお話しさせていただこうと思います。

私は幼少期の頃より、祖父が身の回りの面倒を見ていてくれました。

そんな祖父もいざれは身体も不自由になり、そんな時に私が祖父の身の回りの支援ができれば、と思い技術習得の為に高校卒業後、福祉の業界に就職させていただきました。

その中で、高齢者の方より感謝の言葉をいただきたりしていく事で高齢者の方々と接する事の楽しさや、やりがいを感じるようになってきました。介護の仕事をやっていく事で自分の中でもステップアップを図り、現在ケアマネージャーの仕事に就かせていただいている。

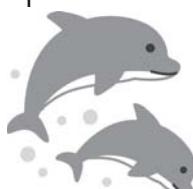
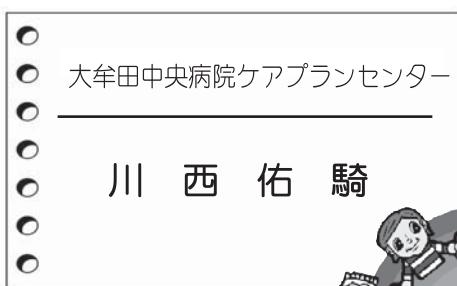
ケアマネージャーの仕事に就いてからは、現場での介護とはまた違った視点での支援も経験し、時には壁にぶつかり、仕事の大変さを痛感しながら毎日を過ごしています。

ケアマネージャーの仕事は幅広い知識を求められるので、まだまだ未熟ではありますが日々精進していきたいと思っています。

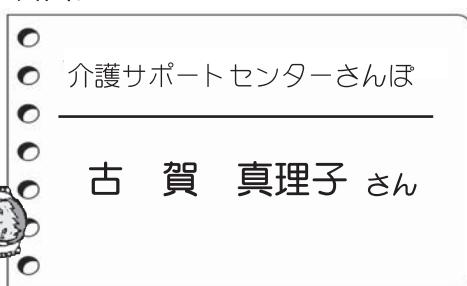
そんな私のストレス解消法はテニスをすることです。テニスをするきっかけになったのは、お正月にある「とんねるずのスポーツ王は俺だ」を見て、「テニスは面白そうだなあ～」と思い、社会人になりました。普段はデスクワークも多く、身体を動かす事も少ないので、身体を動かす事でスッキリしています。

これからもプライベートも楽しみながら仕事も頑張っていこうと思います。時には皆様の知恵を拝借する事もあるかと思いますが、その際には何卒よろしくお願ひ致します。

次回は、快くふたつ返事で受けて下さった介護サポートセンターさんぽの古賀 真理子さんへバトンをお渡ししたいと思います。



次回は…………



です。

# 大牟田市からのお知らせ

福祉課（問合せ）☎41-2683

## 令和元年度介護保険負担限度額認定証の更新について（お願い）

時下、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

また、日頃より本市の保健・福祉行政にご協力いただき、厚く御礼申し上げます。

さて、申請をされた介護保険施設利用者および短期入所サービス利用者で利用者負担段階が第1～3段階に該当する方には、介護保険負担限度額認定証を発行しているところですが、現在発行している認定証の有効期限が平成30年7月末日で切れるのを受け、更新手続きが必要となる方へ負担限度額更新申請書をご自宅（送付先を設定されている方は送付先）へお送りします。

上記対象者で漏れがある場合や、今後施設への入所、短期入所サービスの利用を予定されている方につきましても、合わせて更新申請・新規申請の手続きが必要です。

つきましては、ご多忙中お手数ではございますが、ご利用者様に、更新手続きの漏れなどがないよう、更新のご案内をお願いいたします。

※負担限度額認定証の発送は8月初旬を予定しています。

※更新案内の発送は郵便番号ごとに発送日をずらしています。

〒837、市外・・・6月17日発送  
〒836・・・・・・6月24日発送



大牟田市福祉課 介護サービス育成担当 TEL：0944-41-2683

### 【編集後記】

夕食後のアイスとコーヒーが手放せない今日この頃ですが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。先日、レンタルビデオ店に行ったところ、大好きなSF映画の新作が並んでいたためレジを持って行くと、「以前借りられているようですがどうされますか?」と店員。見た記憶が全くなかったため、「前回は忙しくて見れなかったんですよ」と笑顔で即答し帰宅。DVDにセットすると、「前回停止した位置から再生しますか?」というメッセージ…。前回見たヤツでした(汗)。やはり時代はAIということなのでしょうか…。

ケアマネ連協創立20周年記念事業のテーマの一つでもある「AIとケアマネジャー」。当日は未来のケアマネ像について、皆様からの色々な意見を聞くことができる貴重な日になることを心より願っています。

(k.s)